

公的研究機関で働く研究者

独立行政法人 産業技術総合研究所
健康工学研究部門 暮らし情報工学研究グループ
添田 喜治

内容

- 産総研について
- 日々の研究生活
- 採用プロセス



産総研とは



産業技術総合研究所は1882年に設立された農商務省地質調査所を起源とする公的研究機関です。

2001年、通商産業省工業技術院傘下の15研究所と計量教習所が統合再編され、独立行政法人として、活動しています。

通商産業省
工業技術院

北海道工業技術研究所
東北工業技術研究所
産業技術融合領域研究所
計量研究所
機械技術研究所
物質工学工業技術研究所
生命工学工業技術研究所
電子技術総合研究所
地質調査所
資源環境技術総合研究所
名古屋工業技術研究所
大阪工業技術研究所
中国工業技術研究所
四国工業技術研究所
九州工業技術研究所
計量教習所（通産省）

独立行政法人
産業技術総合研究所



人員・予算

- 研究職員（うち外国籍） 2,255名（88名）
 [うちパーマナント] [1,948名]
 [うち任期付] [307名]
- 事務職員（うち外国籍） 666名（1名）
 2014.7.1現在 職員合計 2,921名（89名）
- 役員（常勤） 13名
- 招聘研究員 153名
- ポスドク 245名
- テクニカルスタッフ 1,695名

産学官連携制度等による研究員等受入実績数

- 企業から 1,774名
- 大学から 1,852名
- 独法・公設試等から 972名
 （うち外国籍 426名）
 （2013年度受入延べ数）



[注] 収入及び支出の額は、独立行政法人通則法第38条に規定する「決算報告書」の決算額である。なお、支出の財源には前年度の繰越金が含まれるため、支出額が当年度の収入額より多くなっている。



産総研の役割①：課題解決

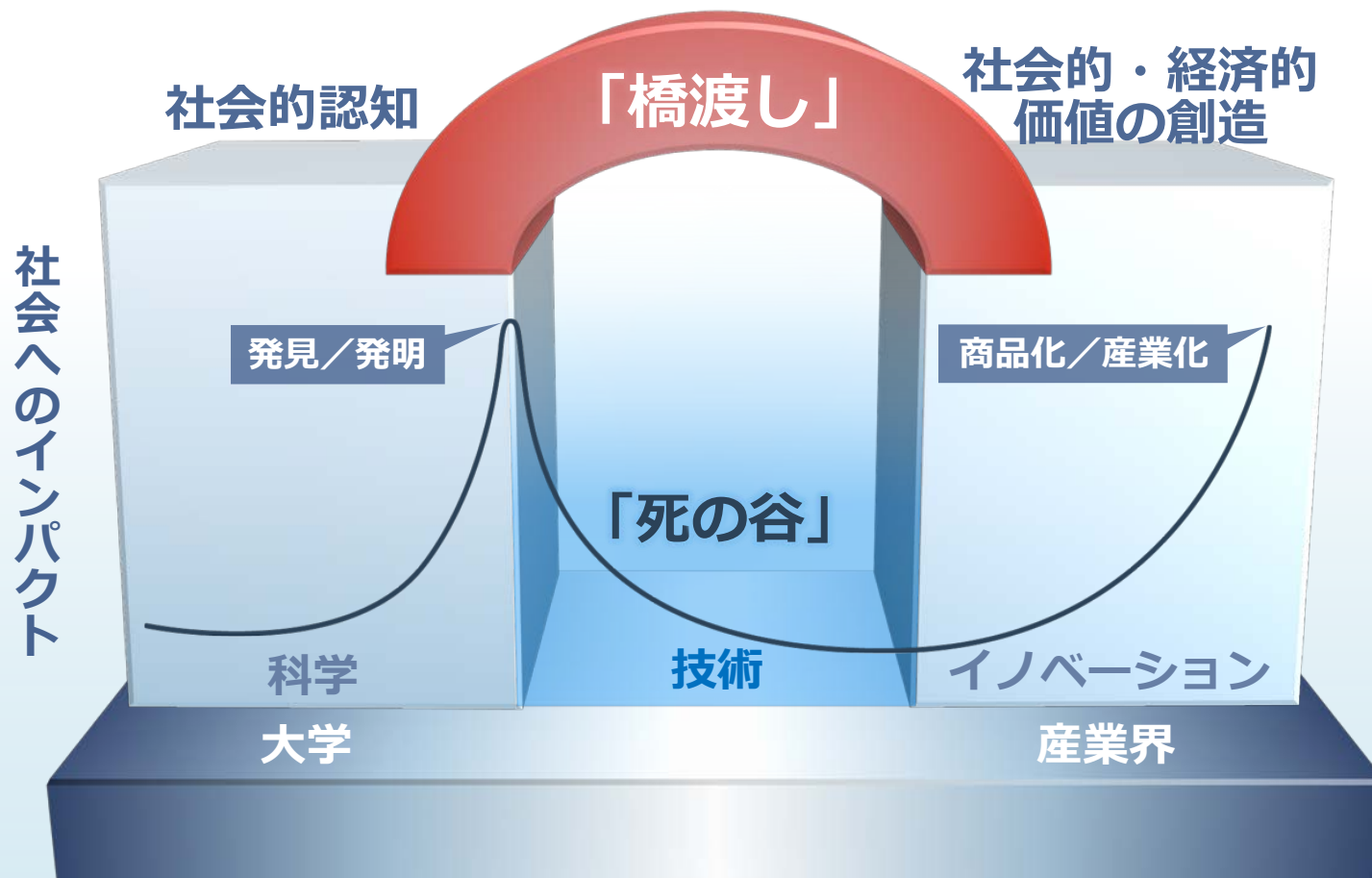


産業界や社会との連携を深め、社会的・
経済的価値につながるイノベーションを創出します



産総研の役割②：橋渡し機能

産総研は、基礎研究から商品化/ 産業化研究まで切れ目なく、産業界へ橋渡しする研究を推進します。



産総研と大学の組織比較

産総研(私の場合)

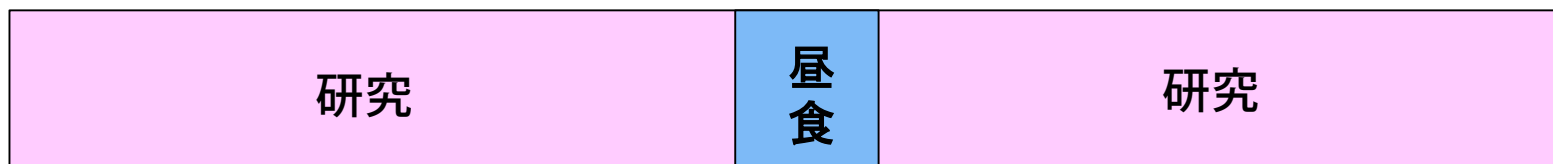
- ライフサイエンス分野
情報通信・エレクトロニクス,
環境エネルギー, ,
- 健康工学研究部門
ヒューマンライフテクノロジー,
, ,
- 暮らし情報工学研究グループ

〇〇大学

- △△学部
工学部, 文学部, 理学部, ,
- □□学科
情報学科, 建築学科, , ,
- ××研究室

日常生活

- 一に研究, 二に研究, , ,



- 研究以外の活動
 - ミーティング (部門, グループ, チーム)
 - 外部資金獲得 (政府系予算, 民間財団)
 - 共同研究費獲得のための活動 (技術相談, 見学対応, オープンラボ, 所内公開)
 - 施設・機器管理
 - 非常勤講師, 論文査読

メリットとデメリット

- メリット
 - 研究に集中できる
 - 機器・施設が充実している
 - 幅広い分野の研究者と日常的に交流できる
- デメリット
 - 実社会での活用について説明が求められる
 - マンパワーが少ない
 - 人材流動が少ない

評価

- 短期評価
 - 毎年度初めに研究計画書(部門のミッションにおける位置づけ, 到達・成果目標など)を提出
 - 毎年度末に評価
 - ボーナスに反映
- 長期評価
 - ある期間(五年)働いた後に評価
 - 昇任に反映

評価項目

- 研究業績
 - 誌上発表(国際誌, 査読あり), 招待講演, 口頭発表, 特許, 標準化活動, 受賞
- 内部貢献
 - 外部予算獲得
- 外部貢献
 - 共同研究, 兼業, 技術相談, 見学対応, 委員

採用について

- 書類審査, 面接(部門, 分野, 理事)
- 採用のポイント
 - 研究業績と採用後の研究計画(論文の質・量, 社会へのインパクト)
 - プレゼン能力(専門家でない審査員への説明能力, 研究能力のアピール, 適切な質疑応答)
 - 部門のミッションとの整合性
 - コミュニケーション能力

最後に

- 産総研の受入制度
 - 産総研ポスドク
 - 共同研究, 技術研修
- 気軽にご相談下さい y.soeta@aist.go.jp